

日本消化器外科学会雑誌編集後記

小生は 2012 年 9 月から、日本消化器外科学会の編集委員を仰せつかり、今回が初めての編集後記となります。以前から他学会誌の編集委員もしていますが、本学会誌の編集委員になって感じたことはやはり、他誌に比べて採用される論文数をはるかに少ないこと(約 25%)、また和文でありながら採用までの revise が 3 回以上になる論文もあることです。これは、投稿者からすると、面倒なことかもしれませんが、和文の医学系雑誌で上位を維持するためには必要なことです。最小限の revise 回数で、採用されるためには、希少性があること、内容を十分に上級医と検討したうえで投稿すること、それと病理が関係する論文では病理医と検討し、共著者になっていただくことが最低限必要です。特に、上級医にチェックしてもらったとは思えない論文がときどきありますが、これでは採用されません。ここ数か月の投稿論文数がやや減少傾向にあるように思います。はじめから、本誌への採用をあきらめるのではなく、積極的に try していただきたいと思います。

本学会の編集委員会は毎月開催されています。これも他学会誌ではあまりないことだと思います。それだけ、編集委員も熱意をもって査読をしています。いよいよ編集委員会も Web 会議で行うという話が本格化し、予行演習が始まっています。我々が研修医の頃には考えられなかったことですが、自分の部屋から全国の先生方と会議ができる。素晴らしいことですが、IT 音痴の私にとっては会議に乗り遅れないか多少の不安があります。

さて本号の論文構成ですが、原著 1 編、症例報告 9 編からなっています。いずれも数回の revise を経て完成した論文です。ぜひご一読をお願いします。

いよいよ冬季オリンピックが始まります。ロシア南部の都市で多発しているテロが気にかかる場所ですが、大きなトラブルがなく、日本選手団がジャンプ、フィギュアスケートをはじめ、多数のメダルを獲得してくれることを祈っています。

昨年の夏は異常に暑かったのですが、今年の冬は異常に寒いと思いませんか！ノロウイルス感染による食中毒のニュースがあちこちで聞かれるようになっています。健康に気を付けて日常業務を頑張ってください。

(池内 浩基)

2014 年 2 月 1 日